

- 1 単元名 わたしたちの生活と食料生産
小単元名 これからの食料生産とわたしたち

2 小単元の目標

- ・自分の生活と食料生産とのかかわりをもとに、我が国の食料生産の現状や未来について関心を持ち、我が国の食料生産の発展を願おうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・我が国の食料生産の抱える問題について、環境への影響、国際協調の観点、生産者と消費者などの観点をもとに、自分なりの考えを持つことができる。(思考・判断)
- ・我が国の食料生産の問題点を、農業就業者数や耕地面積、自給率や輸入額の変化のグラフなどの資料から読み取り、調べる過程でわかったことや考えたことを、目的に応じた方法で表現できる。(表現・技能)
- ・我が国の食料生産は国民生活を支えていることや、これらの食料生産には、就業者の減少、食品の安全性、環境保全、自給と輸入の関係など、さまざまな課題があることを理解することができる。(知識・理解)

3 小単元について

大単元「わたしたちの生活と食料生産」の主な学習内容は、我が国の農業や水産業とその事例について調べ、それらが国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解し、これからの食料生産について考えることである。本小単元「これからの食料生産とわたしたち」では、前時までの学習を生かしながら、身近な食としての給食をもとに、日本の農業に起きている問題点を調べたり、これからのよりよい食料生産のために私たちが何をすべきかについて理解を深めていくことがねらいである。さらに発展的な学習として、さらに自分が調べてみたいと思うテーマを決めてそれについて調べたり、自分の考えをみんなに発表し話し合う中で、これからの日本の農業について考えを深めていくことができるようにさせたいと考える。なお、本単元の学習までの既習内容としては、3, 4年生での市や県の産業についての地域学習があげられるが、今回の学習は、6年生の「世界の中の日本」の学習を経て、中学校2年地理の「様々な面からみた日本」での穀物自給率の学習につながっていくことになる。

4 児童について

大単元の導入の段階で「食べ物のふるさとさがし」として様々な食料品の産地調べをしたところ、児童はたいへん意欲的に取り組み、私たちの身の回りにある食料品が日本の各地で作られていることに気づくことができた。また外国で作られた食料品が身の回りにも気づくことができるなど、毎日の自分の生活と食料生産との関わりを少しずつ理解できるようになってきている。しかし、毎日学校で食べている給食の食材について関心を持っている児童は少ないようである。児童に、給食の主な食材の産地を予想させたところ、大半の児童が国産のものが多いと考えていたが、実際に地元のものを使っていることや国産ならではの安全性が高いものを多く使っていること、小麦や豆など食材の多くを外国に頼っていることなどについて気づいている児童は少ない。

5 指導について

児童には、単元全体を通して常に自分たちの生活と食料生産との関わりを考えさせていきたいと考える。本時の指導にあたっては栄養教諭とのTTの形式をとる。給食の食材選びの工夫や苦労などをはじめとして、安全な食材を選ぶことの大切さなどについて話を聞くなど、専門の知識を持った栄養教諭の利点を十分に授業の中で生かしていきたい。そして児童が改めて日々の食生活に感謝する気持ちを持ち、進んで食べ物を大切にしようとする態度を身につけていけるようにさせたい。さらにこれからの食料生産の課題について自分の考えを持ち、意見交換の場では友達の考えと合わせながら様々な観点から考えていけるようにさせたい。また発展的な学習として、総合学習のなかで自分のテーマについて調べまとめたことを発表する場を設定するが、ここでも専門の知識を持った栄養教諭などの助言を生かしながら、考えを深めさせていきたい。

6 指導計画（全6時間配当）本時（1/6）

時	学習内容	ねらい	関	思	技	知	評価規準
1	安全な食材を選ん で	給食の食材の安全性の話題 をもとにして、環境にやさ しい食料生産や食料の自給 率の問題について考え、学 習課題をつくることのでき る。					（関心・意欲・態度） 我が国の食料生産の現 状に問題意識を持って 自分なりに考えようと している。 （思考・判断） 我が国の食料生産の抱 える問題について見通 しや予想を持って考え ることができる。
2 3	日本の農家のすが たとこれから	資料「外国野菜の輸入と、 こまる産地の農家」や関連 したグラフなどを読み取 り、農産物の輸入がもたら す問題点を調べその意味を 考えることができる。					（技能・表現） 農業就業者数や耕地面 積、輸入量の変化のグ ラフなどから、我が国 の食料生産の問題点を 読み取ることができる （知識・理解） 我が国の食料生産には 様々な課題があること が理解できる。
4	これからの食料生 産と国土	農業におきている問題が、 自然環境や世界の食糧不足 に与える社会的な意味を考 え発表することができる。					（技能・表現） 食料生産の問題につい て様々な資料から読み 取った事実を相互に関 連づけ、自分の考えを ノートにまとめたり発 表したりできる。 （知識・理解） 農業生産がへること によってどのような問 題がおきるのかが理解 できる。
5 6	消費者と生産者が ともに考える	これからの食料生産は、自 給を高めるために生産者と 消費者がともに考えるこ とが重要であることに気づ きさらに考えを深めること ができる。					（関心・意欲・態度） 食料生産の現状と未来 に関心を持ちその方策 を自分なりに考えよう とすることができる。 （思考・判断） 食料生産の問題を、生 産者と消費者の観点を もとにして多面的に考 えることができる。

7 本時の目標

給食食材の安全性の話題をもとにして、身近な食料生産について考えることができるとともに、食料自給率のグラフから我が国の食料生産の現状に気づき、感じたことや考えたことなどを発表するなかで、今後の学習課題をつくることができる。

8 準備物

給食で使われている食材、食材が作られている様子、畑の写真など
食料自給率を表すグラフ、児童用ワークシート

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（ ）	
	T 1（担任）	T 2（栄養教諭）
<p>前時からの学習課題「給食の食材はどのようにして選ばれているのか」について栄養教諭から話を聞く。</p> <p>主な食料の自給率について知る。</p> <p>過去30年間の日本の食料自給率の推移について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・にんじんや玉ねぎなどの今日の給食の食材を用意し具体的なイメージを持てるようにする。 ・「エコファーマーの越前野菜」の写真や資料を用意する。 ・今日の給食の献立を黒板に掲示しておく ・ワークシートに予想を書かせる。 ・「主な食料の自給の割合」のグラフを参考に、我が国の食料自給率が低いことに気づかせる。 ・「食料自給率」のグラフを参考に、日本の食料自給率が年々下がっていることに気づかせる。 ・資料「てんぷらうどんで見てもよう」を用意する。 <p>栄養教諭の話や、それぞれの資料に関心を持ち、日本の食料生産について自分なりに考えようとしているか、 （関・・・ワークシート、発表、行動観察）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や資料を使いながら、安全な食材をどのようにして選んでいるか話をする。 ・地元の食材を多く使っていることに気づかせる。 ・国産のものなら、生産農家に直接安全性を確かめられる良さがあることに気づかせる。 ・給食の食材の中にも外国からの輸入品があること、特にパン用の小麦は殆どを輸入にたよっていることを説明する。 ・資料を使って、自分の身の回りの食料も多くが外国からの輸入にたよっているものが多いことに気づかせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">食料の安全性や日本の食料自給率について、自分の感想や考えをまとめよう</div>		
<p>栄養教諭の話、資料のグラフから疑問に思ったことや自分の考えをワークシートに書いたり発表したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視をして、必要に応じて助言をする。 <p>日本の食料生産の問題点について、読み取った事実を関連づけながら自分なりの考えを持つことができたか。 （思・・・ワークシート、発表）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視をして、必要に応じて助言をする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">みんなの発表をもとに、学習課題をつくらう</div>		
<p>発表をもとに食料生産についてのこれからの学習課題をつくる。</p> <p>次時の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの発表を聞きながら全体で学習課題がつけられるようにする。 ・次時の学習への意欲づけになるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何気なく食べていた日々の給食の食材にも目を向けるよう児童に意識づけをする。